

CASPT2025への参加

2025年7月1日～4日

CASPT2025の概要

Conference on Advanced Systems in Public Transport and Transit Data (CASPT) 2025が7月1日～4日に京都大学で開催され、当研究所から覃前研究員が参加した。

CASPTは1975年に始まり3年ごとに開催されている、公共交通の計画および運営を対象とした国際学会であり、前回は2022年にイスラエル・テルアビブで開催された。産官学連携の推進が目的とされ、学者のみならず実務家も多数参加しており、今回は発表者を含め200名以上が参加した。

今大会では、森地茂 東京大学名誉教授・政策研究大学院大学名誉教授（当研究所の評議員・研究アドバイザー）が「日本のTODとアジアへの提言」（原文は英文）と題して、日本におけるTOD（Transit Oriented Development）の取組、成果、課題等について、特別講演を行った。

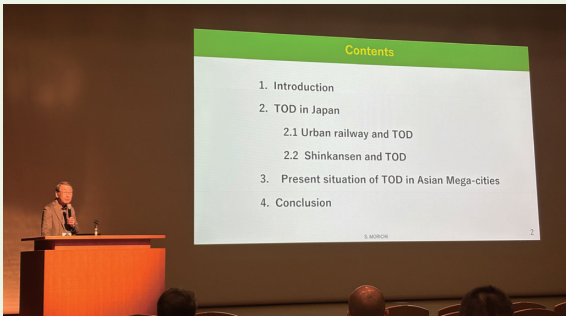
発表内容

覃前研究員がポスターセッションで、「グリーンスローモビリティの導入効果についての考察：ソーシャルキャピタルの視点から」（原文は英語）と題して、当研究所で行った個別研究調査を基に発表した。

千葉市桜木地域における事例のソーシャルキャピタル¹⁾ というアプローチを用いた考察を踏まえ、グリーンスローモビリティ²⁾ の展開を含め、日本の公共交通の課題、新たな取組などについて、各国の研究者と活発な討論と意見交換を行った。特に、グリーンスローモビリティが地域住民によって運営されている点については、海外の参加者から高い関心が寄せられた。

1) ソーシャルキャピタル：社会関係資本。“人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴” (Putnam 1995)。

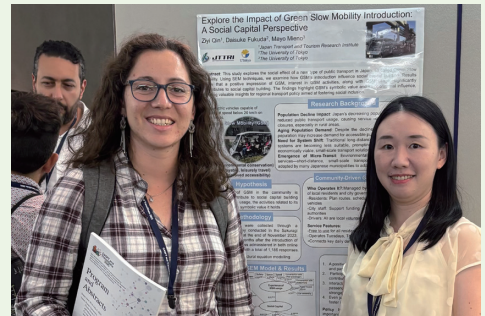
2) グリーンスローモビリティ：時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス



森地名誉教授の特別講演



会場の様子



覃前研究員（右）と参加者との意見交換

Explore the Impact of Green Slow Mobility Introduction: A Social Capital Perspective

Ziyi Qin¹, Daisuke Fukuda², Mayo Mieno³

¹Japan Transport and Tourism Research Institute

²The University of Tokyo

³The University of Tokyo



Abstract: This study explores the social effect of a new type of public transport in Japan, so called Green Slow Mobility. Using SEM techniques, we examine how GSM's introduction influence social capital building. Results show that a positive impression of GSM, interest in GSM activities, along with GSM usage, significantly contributes to social capital building. The findings highlight GSM's symbolic value and its operational influence, offering valuable insights for regional transport policy aimed at fostering social inclusion.

覃前研究員の発表資料（ポスターセッションの発表資料の一部を抜粋）

要旨（日本語訳）：

本研究は、日本における新しい公共交通の形態であるグリーンスローモビリティ（GSM）の社会的効果を検討するものである。構造方程式モデリング（SEM）を用いて、GSMの導入がソーシャルキャピタル醸成にどのように影響するかを分析する。その結果、GSMの利用に伴う、GSMに対する好印象、GSM活動への関心が、ソーシャルキャピタルの醸成に大きく寄与することを明らかにしている。これらの知見は、GSMが持つ象徴的な価値と運用面での効果に光を当て、社会的包摂を促進する地域交通政策に有益な示唆を与える。